

資料 1

学級	A	B	C	D	E	F
各学級担任の考え	個人指導の徹底 (能力差)	事前打ち合わせを 効果的に実施する	具体的な操作や体 験活動	・学習のまとめの工 夫 ・評価の工夫	・教材研究の工夫 ・指導計画の充実	児童教材の研究による基 礎的知識の習得を促す 児童教材の活用による基 礎的知識の習得を促す
個人課題に対する関わり	手立て ・指導と役割分担への明 確にする	・単位の時間 ・工法を工夫して打ち 合わせ結果を 実施する	・操作活動や指導 ・位置づけや指導 ・位置づけや指導	・自力解決時 ・思考の結果を一人 一人の考えを 感想を分析する	・目標達成の準備と ・工夫のあて	・二人指導 ・二人指導 ・二人指導
反省	下位児童の指導 ・一人一人の意欲 ・一人一人の意欲 ・一人一人の意欲	・児童の反響 ・児童の反響 ・児童の反響	・児童の反響 ・児童の反響 ・児童の反響	・児童の反響 ・児童の反響 ・児童の反響	・児童の反響 ・児童の反響 ・児童の反響	・児童の反響 ・児童の反響 ・児童の反響

※ 原簿用紙には、すべてのページに題及び執筆者名等記入して下さい。

【二回実施後の考察】
「教材研究」と「評価」の点で
全体的な意識の高まりがみられ
た。二人の教師がそれぞれの教
材研究をもとに授業の進め方を
打ち合わせることにより、教材
研究の深まりを実感できた結果

と云える。また、教材研究から
単位時間ごとに評価すべき内容
も明確になり、評価の充実に関
してきたものと考えられる。
個への支援や個の考えを生か
した学習のまとめについては、
意識の面で一回目(七月)同様
高いと言える。しかし、多様な
手立てを試みながら充実を図
うと試行錯誤しているのが現状
である。

○ 児童の実態把握については、
実態をとらえるための事前テス
トができなかったため十分とは
言えないという理由から、一回
目の実施時より厳しく評価して
いる。
【自己課題とする項目の変容から
の考察】
○ 自己の課題に対する評価が高
まったという結果を示している
のは「教材研究」と「評価」の
項目である。時間を確保し、意
識して取り組んだ結果に手ごた
えを感じ、自己評価が高くなっ
たものと考えられる。
○ 「支援の在り方」や「学習のま
とめ」では意識
して取り組むう
ちに指導上の新
たな問題点が現
れるため、自己
の課題としての
評価は厳しいよ
うである。

資料 2

観 点	内 容	実 施 月	●			
			よくある	どちらか	あまり	あてはま ない
実 態 把握	各単元に入る前の児童の実態を とらえている。	7月	0	6	1	0
		11月	0	4	3	0
教 材 研 究	教材研究により単元の系統性や 単位時間の内容をとらえている。	7月	0	4	3	0
		11月	2	5	0	0
教 材 具 体	教材提示の工夫をしている。 (具体的な操作活動や作業の場 の工夫)	7月	1	6	0	0
		11月	1	5	1	0
支 援 の 方 法	個に応じた指導の手立てを明確 にして支援にあたっている。	7月	1	3	3	0
		11月	1	4	2	0
理 の ま と め	個の考えを発表の場を生かして 学習のまとめができています。	7月	1	5	1	0
		11月	1	5	1	0
評 価	評価規準や評価問題をもとに、 各時間ごとの評価に努め、指導に 生かしている。	7月	0	2	4	1
		11月	2	3	2	0

※ 「●」印の移動は、自己の課題ととらえている項目での変容を示す。

現れが感じられないが、必要性
を感じつつある様子が見え、
T・T担当者としての協力的体
制が必要な点と考える。
『体験や操作活動により理解を
図る授業』
○ 授業実践と反省記録の累積
① 授業実践反省記録
○ 自己課題をもとに重点単元を
決め、授業実践を進めてきた。
反省記録は、単元指導計画を活
用して行ってきた。
【実践例1・2についての考察】
○ 授業の反省記録を二人の話し
合いをもとにT・T担当教員が行
ってきたため、自己課題について